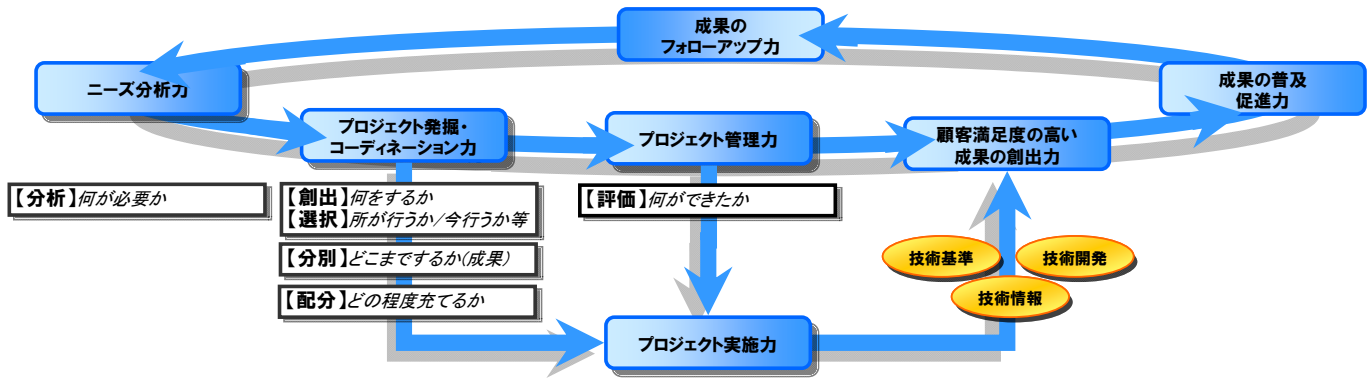




# 平成18年度の重点取組事項 プロジェクトライフサイクルマネジメント機能の強化

質の高い研究成果を迅速かつ的確に創り出すことができるようにするため、研究プロジェクトの企画立案、実施、管理等の研究全体のライフサイクルにおける各ステージの機能の強化を行いました。



## 重点研究ロードマップの作成

中期計画に定められた重点研究を迅速かつ的確に実施するため、研究計画・資金計画・外部との役割分担をまとめたロードマップを作成しました。

技術現状(ベンチマーク)と成果目標を明確化するとともに、研究期間を短縮しました(原則2-3年で成果を出すことを目標とし、これを超える場合は、マイルストーンを設定)。

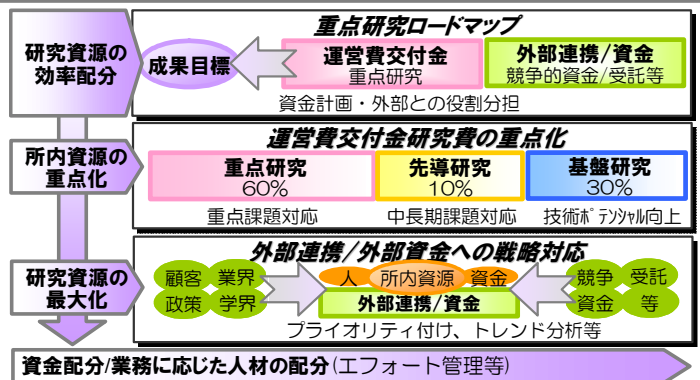
安全確保・環境保全のための研究										
政策課題(ニーズ)	中期目標	中期計画	研究課題	第1期	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	第3期
安全確保・環境の保全	原因の究明・対策の確立	国際基準の策定	対策技術の開発	現状調査 【委託調査】	影響評価 【手法検討】					
国際基準の策定	技術現状 ベンチマーク(所内外)	成果目標 数値目標など		基準策定 【原案策定】	基準案提出・フォロー					
対策技術の開発	技術現状 ベンチマーク(所内外)	成果目標 数値目標など		対策機器の開発 【委託技術】	検証					
				検査機軸の開発 【計測装置】	検証					

## 戦略的な資源配分

質の高い成果創出のため、研究所の研究資源を戦略的に配分しました。

研究区分に従い、研究費を効率的に配分(重点研究に運営費交付金研究費6割を充当)するとともに、これに準じ、研究者のエフォート配分も見直しました。

また、プライオリティ付け・トレンド分析により、外部資金の獲得にも努めました。



## 研究評価システムの見直し

行政・社会・産業のニーズに臨機応変に対応して研究を実施するため、研究評価システムの見直しを行いました。

評価の種類・研究の区分に応じ、評価項目・評価手法の最適化(学術評価から課題解決評価により一層シフト)するとともに、ニーズ変化を迅速に反映するため、中間価(3年毎)を廃止し、年度評価(1年毎)を導入しました。

研究評価	事前評価	重点研究		先導研究	基礎研究	外部資金型研究
		内部評価	外部評価	内部評価	内部評価	※国費関係は、 資金元で評価
事後評価	大綱の指針に 準ずる評価	内部評価	外部評価	内部評価	内部評価	※国費関係は、 資金元で評価
	大綱の指針に 準ずる評価	内部評価	外部評価	内部評価	内部評価	※国費関係は、 資金元で評価
	大綱の指針に 準ずる評価	内部評価	外部評価	内部評価	内部評価	※国費関係は、 資金元で評価
年度評価 (年度毎)	各事業年度に 係る業務実績に 関する評価	内部評価	外部評価	内部評価	内部評価	※国費関係は、 資金元で評価
事業評価 (5年毎)	中期目標に係る 業務実績に 関する評価	内部評価	外部評価	内部評価	内部評価	※国費関係は、 資金元で評価
独立評価 に資する ための 評価		内部評価	外部評価	内部評価	内部評価	内部評価
		内部評価	外部評価	内部評価	内部評価	内部評価
		内部評価	外部評価	内部評価	内部評価	内部評価
		内部評価	外部評価	内部評価	内部評価	内部評価
		内部評価	外部評価	内部評価	内部評価	内部評価